通航一覽續輯

五

朝鮮

壱

二百四十

内閣文庫		
番號	和	18305
冊數	414(241)	
函號	184	270

朝鮮 壱

二百四

通航一覧續輯

五

内閣文庫		
番號	和	18305
冊數	414(241)	
函號	184	270

2014/ 3/19

通航一覧續編

日本政府圖書

朝鮮國部

宗氏通信御用

来聘御用掛

潜商刑罰

人参

浅草文庫

目録

一 宗氏通信御用
一 東萊御用捌
一 渡海船刑罰
一 人參

内閣文庫

通航一覧續輯巻之五

朝鮮國部一

○宗氏通信御用

文政十二己丑年十月六日

儲君聖誕により宗對馬守義質

朝鮮國より吉礼の應接として使

来書のむねこれを賞せらる

家人より色物を得へし

文政十二年十一月廿五日
宗家文

天保七丙申
竹島一件

朝鮮國部

○潜商刑罰

天保七丙申年六月松平周防守康爵家人ならひ徒黨の族朝鮮國竹島におゐて潜商の事顕れ大坂町奉行矢部駿河守より寺社奉行井上河内守正春より同

一 右義ニ付同年十二月廿八日

名跡科ニ而そこに周防守康

爵もその外よりり蟄居被仰付

らる

天保七丙申年六月朝鮮国持竹嶋え渡海いたし

候の者今般大坂町奉行矢部駿河守

井上河内守より引渡ニ相成水野越前守殿御掛

石州浜田
廻船問屋
会津屋清助 死

右倅
同居会津屋
八右衛門

右者親清助ニ而その先年浜田屋敷周旋

右絶而無之六ヶ年以前倅八右衛門願出而候

上年来親清助高恩を請候上を以て積も

掛合ニ而当冬加浜田沖竹嶋之事　不ニ急
次山之者漁之儀付ニ而年々出速上下致上候
江戸表ニ而事柄ニ願出ニ而も更ニ渡海ニ不相成ハ其上
浜田之法ニ而候得ハ　御咎ニ者相成ニ而も押而其不相済して
取計ニ付　右竹嶋之事ハ浜田領沖合ニ而
竹嶋ニ而朝鮮国之向寄之竹嶋ニ而無人嶋ニ
付而浜田領より右嶋江押渡り日本ニ而
刀剣之類并外品漢舟ニ而密渡海致し漂着ニ而
異国人江交易いたし候処刀剣者江戸
並浪花ニ而買集其外品者浜田用物ニ而

會符を右周ニ而
捕方差し遣日着し出候

石州浜田城主
松平周防守家来
家老
岡田頼母
年寄
松井図書
鵜藤樵太郎
横濱百八郎
右頼母家来
橋本三之助
林品右之助

石州浜田
中嶋町
玉屋惣兵衛支配借家
中玉屋
庄助

同
江戸堀五丁目東町
長門屋伊兵衛借家
播磨屋
夏太郎

江戸橋町
刀藤左衛門借家
大黒屋
定七

同 留沢町
大津屋茂兵衛借家
清太郎

同大坂
海部堀川町
伊勢屋
嘉之助

右之者共水野越前守殿より井上河内守江相渡
候ニ付相渡候
以上

大坂町奉行矢部駿河守より寺社奉行井上
河内守江川路左衛門尉ニ而相渡候

六月十日

松平右近将監領分
石州浜田松原新田
金沢屋[illegible]方ニ[illegible]
右在所
当時無宿[illegible]

一 通り糺之上
入牢

八右衛門 申三十九
松平隠岐守殿領分
讃州三野郡小豆嶋
二ッ木村
船乗

同
平助 申四十九

大坂安治川町二丁目平右衛門 申六十三
播磨屋吉右衛門借家
吉之丞 申七十

松平安芸守殿領分
芸州豊田郡
瀬戸田町瀬戸物町
船乗
新之丞 申三十七

右於井上河内守宅同人申渡之
六月十四日

一 通り糺之上
揚屋江遣ス

松平周防守家来
大谷作之丞
三村又左衛門
村井荻右衛門

右於前同人宅同人申渡之

四月十四日松平周防守江
御達之
昨十二日松平周防守家来大谷作之丞三村又左衛門村井
荻右衛門儀井上河内守宅ニ而
同人申渡候ニ付吟味之上

之吟味中揚屋ニ申付置候家来之者今日
中間共ニ而召捕候様伺之通申渡之
六月十六日　　　　　　松平周防守
右書面御用番水野越前守殿江差出ス
七月九日

吟味中石川
日向守ニ而承

吟味中伊東
播磨守ニ而承

大谷作之丞
三枝右衛門
村井荘右衛門
八右衛門
平助

右前同人宅ニおゐて同人申渡ス

覚書

周防守家来八十郎隠居恩田秋冊松井曷書
候去月九日井上河内守様御屋敷江罷出
不遂御用表御帰候処同月八日夜秋冊儀
自殺仕相果曷書候ニ付同月九日暁兄又自
殺仕相果候ニ付役人共差遣
御役所ニ而自殺相違無御座候ニ付御届申上候
其後中越ニ而候由ニ付名前書付取調
追而可申上候周防守届書昨夜御届申上候

御暑中ニ付 右同月中より出先差扣ニ及候旨今ノ日
此者諸札差部屋出不申候節上ヶ候之
七月廿一日
當年同席之家来
大草権之丞
吟味中
揚屋ニ遣ス
七月廿八日
橋本三之助
八月朔日
金津屋さく
同月廿日
鵜澤梅太郎
右之通前同人宅ニ而吟味之上同人申渡し
以上
右之外ニも橋本石州浜田表ニ而捕方之義ニ而も

私家来八十之助湊浜居用秋秋松井縁書鵜澤
梅太郎 橋本百八郎 八十郎 石川橋本三之助
中着早ニ而出し 前沢中平二十二河内守
之家来之者ニ出達候付 去月九日急飛
脚ニ而以中渡付候 同廿一日湊同表ニ而出達御用
之出府之候中付 同廿七日より出府之様子
秋秋役ニ而廿五日より中着早書役ニ而廿六日より
腹痛熱氣強く右之者出府相成十日ニ而
被申付候 當月朔日右之者出府致し様子
之用意仕候ニ付 去月廿八日夜中而秋秋役

自殺仕相果申候、昌書儀者同夜九日晩迄之
自殺仕相果候ニ付、申出候ニ付、不取敢役人差遣
相改候処、相違無之候ニ付、右浜田表より急飛
脚を以申越、昨年以来相違候ニ付、秋成昌書
瘡所改書付、昌田八十郎昌書右満居松山
口上書を以差出候ニ付、相添御用番江差出
申上候様御沙汰御座候、上申候以上

七月十九日　　松平周防守

右者御用番御老中江差出、井上河内守殿御掛り
松平宗発
加賀守殿江差出
候也

秋成
昌書

無拠儀ニ付、右昌書も有之、且酒井隠岐守殿ゟ
右ニ而も[illegible]之者ニ而[illegible]
不被成候

申十二月廿二日

石州松平
[illegible]
八木[illegible]

松平周防守家来
昌田八十郎申付
橋本三左衛門

死罪

一打寄印

外壱本収納外
三上中道具

徒道具大坂之
揃江戸拂

役段三上押込

大坂安治川町南弐丁目
吉兵衛

新戎町
源蔵

橋町
定七
庄助

松平周防守家来
家老
松平亘

宗對馬守家来
松村但馬

松平周防守家来
勘定役
大谷隆兵衛

元〆役
三津六郎右衛門
瀬津梅右衛門
谷口勘兵衛
三宅弥栖作

押込

御代官江
急度叱り

口留江
急度叱り

新戎町
平蔵
吉兵衛

嶋田屋町
清右衛門
利作

松平周防守家来
長田八十左衛門
杉浦仁右衛門

急度叱り

過料三貫文

無構

右周防守家来
南条嘉右衛門
吉江秀右衛門
右同 松原甫
[illegible]

松平周防守家来
大谷権左衛門
林 ?右衛門
大塚孫蔵
諏訪與左衛門
楢崎万八郎
村井萩右衛門

増山河内守家来
大森許吉
大坂海部堀川町
與兵衛
同天満壱丁目
加兵衛
讃州小豆嶋
馬木村
船頭
定助
平右衛門
藝州忠江嶋
瀬戸田村
船頭
新兵衛

右於評定所一座掛井上河内守酒井伊賀守
大目付水野采女立合河内守申渡之

松平下野守

其方儀元順分右別松東浦之居出八左衛門
行衛之儀海貝論見屆之儀宗家来之者へ依願
之中山儀本家様ニ而其之家老ニ而役申之
儀順分之儀向守別之家老之儀年来
并之儀殿之八左衛門ニ而も不相成之儀海いたし
右御家来共不届之至極いたし是又不埒
之儀主殊ニ松平真より宗對馬守記録書抜一覧

若由之儀河内守右鶴家督之所
右紀ハ私儀も之儀不束之事ニ而
永蟄居ニ　御付之　思召ニ候之
右松平因幡守宅ニ大目付村上大和守出役ニ而
申渡之　河内守被仰付之丹波守立会

竹腰□□　拝

同八丁酉年二月廿一日去年國林子
を犯し朝鮮属竹島に渡海
せし者共悉く罪せられ以後
國々の廻船同島も遠海洋中
をいて異船に近つくましき
旨嚴しく令せらる

天保八年 [illegible]

天保八酉年十二月廿日

今般松平周防守元領分石州浜田松原浦ニ
罷在候無宿八右衛門竹嶋江渡海いたし候一
件吟味之上右八右衛門外夫々厳科ニ被行候
右嶋儀古ハ伯州米子之者共渡海魚漁等致候

将又元禄之頃ゟ新来ニ而漂流之唐船
漂海浜迄漂着仕候 唐船共者不叶之趣申立候
海之儀者当然之 御制禁ニ以来何方
右漂流之儀ハ同時より漂海致来しく候
向浦ニ来之処其船等海上ニ而致候呉来私ニ
出合者を以家筋等を以仕候而右之元年
抜荷ニ而右之段等以来ハ不成丈遠沖
家不致様家共等不申候
右之趣 御料者御代官私領者地頭ゟ
浦方村町迄も不洩様可触知候 高札ニ

認ニ而札場等ニ掛置可申もの也

二月

右之通可相触候

右之書付肥後守渡之○相渡候 右之同付候相触之候

松平□□守 / 御勘定奉行 林忠英

正徳方万年記

閏三月二日

同年三月二日去勘定吟味役評定所留役等差添者へ白銀拾両賜ふ

同年三月二日竊に竹島へ渡海をし周防守康爵家人とも徒党の者とも裁許せし去勘定吟味役評定所留役等へ物を賜ふ

天保八年二月

巻之三

一 当分定廻役　中野文左衛門

松原浦安宿八右衛門竹鶴与設漁猟一件

吟味之上掛り訴出候

右於大右衛門組合場頼を老中列座御申渡

申渡し

銀七枚

同五枚宛

同断ニ付沙汰不及

評定所留役
支配勘定組頭
豊田友之丞

寺社奉行吟味物調役
大熊善太郎

坂苑平蔵

支配勘定
評定所留役
関保右衛門

山本新十郎

右於同席同人申渡之

銀三枚

松浦安房守八右衛門行方ゟ渡海いたし

一件吟味之處板坂付沙汰し

支配勘定出役
評定所留役書物方
服部平右衛門

右於焼火之間之席申渡之

天保六年条
研究所写一件
佐藤方ゟ写年記